

自分との対話を軸として、

自分にとっての意味や価値をつくりだす図画工作科の学習

I 図画工作科研究の方向性

1 主題設定の理由

「小学校学習指導要領（平成29年）解説 図画工作編」では、図画工作科における授業改善の方向性が次のように述べられています。

題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。

前研究では「自分の表したいことを追求し、つくりだす喜びを味わう図画工作科の学習」、を研究主題として、表現と鑑賞を相互に繰り返しながら、発想や構想、技能、鑑賞のそれぞれの能力を関連させる授業づくりを進めてきました。これにより、児童同士の対話が活発になったり、題材における造形的な視点を明確にして活動をしたりすることができました。一方で、児童の対話の内容が造形的な視点を基にしたものが中心になっているのかという課題が残りました。

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会芸術ワーキンググループ（以下芸術WG）では、図画工作科の知識について「〔共通事項〕を学習の支えとして、形や色などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるようにすること」としています。児童が感性を働かせながら自分なりに考えることが必要となります。

全体研究主題『「新たな価値を創り出す子供」を目指した教育活動の創造』を受けて、図画工作科では、形や色などについて学習したことが自分たちの生活や社会とつながっていることを実感し、自分たちの豊かな生活につなげる姿を「新たな価値創り出す姿」と押さえました。このような姿に迫るためには、自分が考えたり表したりしたことに対して、自分にとっての意味や価値を見いだすことが必要だと考えました。

そのためには、自分が考えたり表したりしたことが、自分にとって意味や価値のある表現であるという自覚をもつことが必要だと考えました。

そこで、研究主題を「自分との対話を軸として、自分にとっての意味や価値をつくりだす図画工作科の学習」と設定しました。自分との対話を基にした鑑賞と表現を相互に繰り返すことで、自分と他者の表現や考えに触れ、自分は何のようなものをよいと感じるのかを捉え、自分にとっての意味や価値をつくりだす学習を目指します。

2 目指す「新たな価値を創り出す」児童の姿

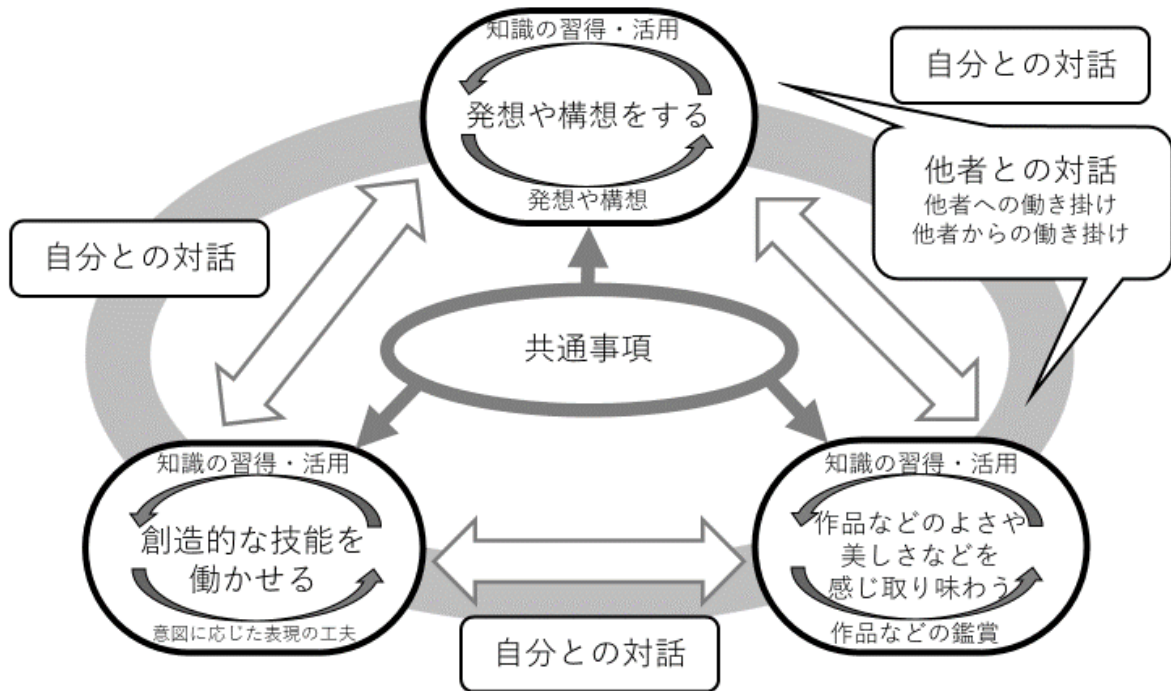
図画工作科における「子供が創り出す『価値』」を以下のように押さえました。

①自ら問いをもって、探究することの価値	自らが表したいことを見付け、どのように表すかを考えながらつくり、つくりかえ、つくること。
②人と関わり、協働して探究することの価値	他者と対話し、様々な表現や考えに触れることで、自他のよさに気づき、表現や考えを豊かにすること。
③探究する中で得た内容知や方法知の価値	「造形的な見方・考え方」を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わること。

Ⅱ 研究内容の具体

1 「探究型の学び」のイメージ

芸術WGにおける審議で示された「図画工作科，美術科，芸術科（美術・工芸）における学習過程のイメージ」を基に，本校図画工作科における探究型の学びを整理し，以下のように押さえました。



学習の中で発想や構想の能力，創造的な技能，鑑賞の能力が学習過程の中で相互に関連しながら働くようにしました。これらの能力は，分けて育成をしたり，学習活動を順序性をもって進めたりするものではありません。学習はどこからスタートしてもよく，また，行きつ戻りつしながら一体となって働くようにすることが大切です。自分との対話を基にした鑑賞をすることで，常に自分との対話を意識して，自らの表現や考えを深めていく姿を目指しました。

2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

中教審では，「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性を「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることをとしています。図画工作科では，「個別最適な学び」と「協働的な学び」を次のように押さえました。

◆図画工作科における「個別最適な学び」

対象や事象を造形的な視点で捉え，自分との対話を通して，自分の表現や考えを深め，自分にとっての意味や価値をつくりだすこと。

◆図画工作科における「協働的な学び」

対象や事象を造形的な視点で捉え，他者と鑑賞や表現をし合うことを通して，自他の表現や考えを広げ，自分にとっての意味や価値をつくりだすこと。

図画工作科の授業は，それぞれが自らの作品をつくりだすという行為において個別的であり，活動する様子を互いに目にするを通して自然な鑑賞が行われているという点で協働的だと言えます。それらを基としながらも，教師が意図的に個別的な学びや協働的な学びを深められる授業づくりをすることで「探究型の学び」のイメージ図の学びが加速すると考えました。また，これらの学びはそれぞれが独立して行われているのではなく，一体となって深まっていくと考えられます。これらの学びを充実させ，表現や考えを豊かにする授業デザインについて研究を進めました。

《鑑賞学習追求レベル表を用いた鑑賞の設定》

鑑賞学習追求レベル表（新関・松岡「鑑賞学習ループリック」を参考に作成）を用いて、B鑑賞だけではなく、A表現での鑑賞についても児童の鑑賞追求レベルを設定しました。鑑賞学習追求レベルを設定する目的は、自分との対話や対話的な鑑賞を通して学びを深める児童の姿を想定し、教師の手立てを明確にすることです。題材の中で造形的な見方・考え方をどのように深めていくのかを児童の姿としてイメージすることで、授業の組み立て方を工夫することができると考えました。

《ほってすって見つけて 鑑賞学習追求レベル表》						
			追求レベル4 ★★★★	追求レベル3 ★★★	追求レベル2 ★★	追求レベル1 ★
(C) 造形要素 とその効果	(C)-1 形、色	各レベル の基準 (本題材 のもの)	彫刻刀で彫った形や表現の特徴に気づき、それらから感じることや、表現の効果などについて、根拠を挙げて批評している。	彫ったり刷ったりして、彫刻刀による表し方の特徴やその効果について、自分なりの根拠をもって考えたり説明したりしている。	彫ったり刷ったりして、使った彫刻刀の種類や彫り方による表現に気づき、違いやその特徴について触れている。	彫ったり刷ったりして、彫刻刀による表現に関心に向けている。
自分自身との対話			他者の見方・感じ方に対する自分なりの意見（共通点や相違点など）を、根拠を挙げながら具体的に述べることでレベル4につなげる。	色々な種類の彫刻刀の表現を組み合わせて、彫刻刀を使い分けたりして自分の表したいことに合わせた表現を工夫している。 「輪郭をくっきりと彫りたいから、印刀と丸刀を組み合わせて使うとよさそうだな。」 「他の彫刻刀と比べて三角刀は鋭い線がつくれるから、毛並みを表すのに使えるな。」	彫刻刀の種類によってできる形を比較したり、繰り返し彫ってよい彫り加減を探したりしている。 「切り出しを使うと丸刀の終わりが真っすぐにできるんだな」 「丸刀と三角刀は線の柔らかさが違うな。」	彫刻刀で彫った形を見たり触ったりしている。 「三角刀で真っすぐ彫ると気持ちがいいな。」 「上手に彫れた時の感触がいいな」 「長く真っすぐ彫れたな」
他者との対話的な鑑賞			他者の見方・感じ方に対する自分なりの意見（共通点や相違点など）を、根拠を挙げながら具体的に述べることでレベル4につなげる。	「短い線を集めることで流れているような感じになっているのが面白いと思ったよ。」 「印刀と他の彫刻刀を組み合わせることで輪郭がはっきりとした表現になるんだね。」	「輪郭線がくっきり出ているところは三角刀を使ったのかな？」 「同じ形を彫っても、彫刻刀を変えると感じが変わって見えるね。」	「この作品がなんとなく好きだな。」 「この模様が面白いと思ったよ。」 「印刷がくっきり上手に出てるね。」

《造形的な見方・考え方を働かせる導入の工夫》

題材の導入では、全体指導で題材の中で働かせる見方・考え方を児童が掴むことができるような工夫をしました。他者と協働しながら題材のねらいや大事にする造形的な視点に気付くことが、その後の個別的な学びにつながると考えました。

○題材名から考える

教科書で示されている題材名は、学習内容が思い浮かび、意欲を喚起されるようなものになっています。題材名から内容を予想することで、題材の中で大事にするものの見通しをもつことができました。

【実践例：3年「ぬのをつないで」】

「どのようにつなぐことができるか」「つないでどうするか」といった表現の見通しを立てたり、題材名に続く言葉を考えたりしながら、題材のねらいに迫る活動を設定する。

【実践例：5年「立ち上がれ！ワイヤーアート」】

「立ち上がれ！」という言葉から、平面的につくるのではなく、立体的にしていくことを知り、どのようにしたら線を立たせることができるのかをみんなで考える。

【実践例：6年「わたしの大切な風景」】

「大切な」という言葉の意味を考え、自分にとっての大切な風景は何かを思い浮かべる。さらに大切な理由や思いを明確にしていくことで、思いを表すための表現を考えることにつなげる。

○未完成の参考作品から考える

教師が用意した未完成の参考作品を見せたり、材料からできそうなことを考え、実際に試したりすることで、児童の思考を促し、どのような見方・考え方を働かせていくのかを明確にしていきました。

【実践例：1年「やぶいたかたちからうまれたよ」】

破いた形を児童に見せて、「何の形に見えるか」を問うことで、「見立てる」ことがこの題材で大事にする造形的な視点だということに気付くようにする。

【実践例：2年「パタパタストロー」】

ストローを組み合わせでつくった「動く仕組み」を見せることで、「自分もやってみたい」という意欲を喚起し、動きからどのようなことが表せそうかを考える。



3 子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

児童が自らの表現を振り返ることは、自らの表現を改めて鑑賞し自分にとっての意味や価値をつくり出す活動の一つだと考えました。巧拙に関する視点ではなく、自分自身の思いや工夫を言語化することで意味や価値を自覚することができます。

また、他者とよいところを伝え合うことで、自分とは違う表現や思いに気付いたり、自分でも気付いていなかったよさを自覚したりすることができると考えました。

○自分の作品や行為の振り返り

自分自身の思いや工夫を言語化できるように「振り返りの視点」を児童に提示しました。提示した視点を介して振り返ることで、造形的な視点に着目することができるようになると考えました。

また、児童の発達段階に応じて振り返りの例を提示し、文章の具体例を示しました。振り返りの視点に沿った振り返りを積み重ねていくことで、児童が造形的な視点で対象を見ることに慣れ、自分にとっての意味や価値をつくりだしていくことにつながると考えました。

振り返りの視点

●ふりかえりの例

思い： …にしたかったので、…
…と思って〇〇を作りました。
形： …な形にしました。
色： …な色にしました。
作り方： …して作りました。
努力： …を見てほしいです。
…が気に入っています。
感想： つくってみて…と思いました。
友達： …さんの…が面白いと思いました。
成長： …ができました。
最初よりも…になりました。
未来： 今度は…してみたいです。

題材や学年によって振り返りの言葉の例を変えます。

低学年は視点につながる言葉を1つ示し、振りかえるようにします。

高学年は視点を自分で選択し、自分と対話しながら振り返りをします。

振り返りの視点「形」の例

<空きようきのへんしん>

形：〇〇を入れたいので、形を…
〇〇の箱をいかして…

<立ち上がれ！ワイヤーアート>

形：針金を立たせるには…
針金の形を変えると…

低学年

高学年

振り返りの例

いっしょにおさんぽ

・だれとどこにおさんぽにいくところかな？
・どんな気もちなのかな？

うさぎとくまとユニコーンとおばけでまちにおさんぽしています。たのしそうにおさんぽしています。

水浴びするゾウ

バネ状の形が面白くてたくさんつなげました。途中で一番太い針金の形がゾウさんに見えてきたので、そこからイメージをふくらませました。

鼻から水を噴水のように吹き出させました。噴水の水が上を向いて立つように、針金に別の針金を巻いて太くして工夫しました。

○よさを伝え合う振り返り

鑑賞の時間を十分確保している題材について、友人と作品のよさを伝え合うことで、友人と見ている視点の違いや自分自身の表現のよさに改めて気付くことができました。

自分の作品を振り返った後に、実際の作品や振り返りのカードを見ながら、感じたよさについてコメントを入力しています。

5つのハート

「ほんま」を賞した形や色の工夫
ハートが乗っているパフェを作りました。
ハートは落ち着いた色の黒、青、黄緑の他、明るい色のピンク、黄色などの色にしました。パフェは、私の好きな苺を入れました。

友達からのコメント

- 色のセンスいいね(・∀・)ｲｲね!!
黒のハートとかおしゃれすぎ!私も食べたいなあ~ ()より)
- かわいい飲み物を発見!見ているだけで私もテンションが上がる~!(・∀・)ｲｲね!! ()より)
- 色々な色が入ってて、可愛いと思いました。本当にあったら飲みたいです。()より)
- マラフルなパフェが可愛すぎ!とっても美味しそうです! ()です)

名前

4年生「元気のおまもり」

Ⅲ 研究実践

4年生実践 『ほってすって見つけて』

実践のテーマ：表現と鑑賞を往還することによって、
自分の表したいことをどのように表すかを考える学習

1 研究授業のねらい

本題材では、彫刻刀の扱いに慣れるとともに、組み合わせた板材の形から表したいことを見付け、工夫して木版に表す力を育てることをねらいとしました。また、彫りや刷りの活動を繰り返すことで木版画の特徴を知り、彫刻刀による多様な表現に気付くことができるようにしました。そのために、児童が彫刻刀の扱いに慣れ、彫刻刀の種類による表現の違いや組み合わせを試す、「試しの時間」を十分に確保しました。版画は彫る・刷るという繰り返しの中で表現と鑑賞を繰り返します。自分の表現だけではなく友達表現を鑑賞することで、自分自身の表現を広げられるように学習過程を工夫しました。試しの活動では、模様や形を彫ったり、刷ったりすることで彫刻刀の扱いに慣れ、表現を確かめました。できた模様や形を鑑賞し、友達がどのように表しているのかを考え、表現のよさを見付けました。

本時では、試しの活動で得た知識を基にしながら表現をすることで、自分の表現を追求することができると考えました。色々な形の版木を組合せたり、版木を彫刻刀で彫ったりしながら、児童が自分の表したいことに合わせて彫刻刀の種類や組み合わせ、彫り方を工夫して表す姿を目指しました。

また、本題材で彫刻刀の彫り方や種類による様々な表現のよさを知り、そのよさを取り入れながら表現することで、5年生の彫り進み版画、6年生の版画表現につながる授業づくりを目指しました。

2 題材の指導計画


段階	時間	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法 (○は指導に生かす, ◎は記録に残す) 枠内：目指す児童の姿
学 ぶ め あ て を も つ	① ②	◇道具の安全な使い方の確認 ○彫刻刀の使い方を確認する。 ・両手を彫刻刀に添える。 ・前に向かって彫る。 ◇試しの活動 ○色々な種類の彫刻刀で試し彫りする。 ○版木に模様や形を掘る。 ・彫刻刀の種類とできる彫り跡に注目する。 ○版面紙に刷る ・バレンの使い方を確認する。 ・使った彫刻刀を記録する。	知 ○ 観察, 対話, 作品 態 ◎ (題材の中で見取る) 観察, 対話, 作品 彫刻刀で木を彫る感覚をつかみ、 体全体を働かせて彫っている。一つ の彫刻刀だけではなく、色々な彫刻 と使ったり組み合わせたりして、多 様な彫り跡をつくりだしている。
確 か な 追 求 ・ 解 決	③ (本 時)	◇試しの鑑賞と構想 ○鑑賞して気に入った表現を見付ける。 ・面白いと思った表現を見付ける。 ・使った彫刻刀や彫り方などの表現の仕方を見る。 ○表現を試す。 ・よいと思った表現を、自分で試す。 ・鑑賞して思い付いた新たな表現を試す。 ○作品の構想を考える ・どんなものやことを表したいか。 ・どんな表現を使って表現したいか。	思 ◎ (③と⑦で見取る) 観察, 対話, 振り返り 自分や友人の表現を見て、よさや 面白さ、表し方の工夫について感じ 取り、話し合っている。版木を組み 合わせて、どのような表現をつくる か考えている。
	④ ⑤ ⑥	◇表現の追求 ○版木を彫る。 ・前時の活動を振り返り、彫刻刀による彫り跡の違いを確かめる。 ・表したいことに合わせて彫刻刀を変えて彫る。 ・版木を切ったり組み合わせたりする。 ○版面紙に刷る。 ・彫り跡を確かめながら版面紙に写し取る。	技 ◎ (3時間の中で見取る) 観察, 対話, 作品 版木を組合せたり彫刻刀で色々 な彫り方をしたりしてできる表現 に注目し、工夫して表している。
ま と め	⑦	◇鑑賞と振り返り ○自分の作品の鑑賞 ・自分の表現のよさを振り返る。 ○友達と作品を鑑賞し合う。 ・友人と表現のよさを見付け合う。	思 ◎ (③と⑦で見取る) 観察, 対話, 振り返り 自分や友人の作品を見て、彫刻刀 による表現の生かし方や彫って刷 ることによって生まれる形の面白 さを感じ取っている。

3 本時の学習

(1) 本時の目標

試しの活動の作品を鑑賞する中で、自分との対話を基に彫刻刀の表現の特徴やよさを捉え、自分の表現に生かそうとする。

(2) 本時の展開（7時間扱いの3時間目）

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
<p>1 前時の想起（3分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 彫刻刀を使って模様や形を彫って刷ったことを確認する。 「色々な種類の彫刻刀があった」 「彫刻刀によって線が違った」 <p>2 参考作品から考える（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師による参考作品を鑑賞することで、造形的な視点に気付くように対話を促す。 	<p>※鑑賞の際は版木と版画作品を両方用意しておき、彫り跡と刷った紙を両方確認する。 ※自分や友達の表現の「よさ」を見付ける活動であることを強調する。</p> <p>◇個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン 研究視点2</p> <p>造形的な視点を基にした対話となるように、教師の参考作品を鑑賞する。</p>
<p>3 本時の課題の確認（2分）</p> <p>――</p> <p>「彫刻刀の表現の特徴やよさを見付けよう。」</p> <p>――</p>	<p>鑑賞学習追求レベル表を基に、追求レベルに応じた机間指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 追求レベル1から2に上げる問い掛け 「どんな所が気に入ったのかな。」 「どんな風に面白いと思ったのかな。」 「どの彫刻刀を使ったと思うかな。」 追求レベル2から3に上げる問い掛け 「どこからそう思ったのかな。」 「どんな表現に使えそうかな。」 「実際にやってみてどんな感じがする？」
<p>4 鑑賞と表現（25分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作品の表現を鑑賞する。（鑑賞ゾーン） <ul style="list-style-type: none"> 面白いと思った表現を見る。 作品について友達と話しをする。 ○よいと思った表現を試す（試しゾーン） <ul style="list-style-type: none"> 友達の作品の表現を真似して彫る。 友達の表現を見て思い付いた新しい表現を彫る。 <p>5 振り返りと次時の構想（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞で見付けた、自分が「よい」と思った表現をまとめる。 （どのような表現なのか、どのように表したのか、どんな風に使えそうかなど） 	<p>※実際に作品を持って行ったり、クロームブックで写真を撮ったりして、作品を手元で見ながら真似をするの也可。</p> <p>※彫りのみで、刷りは行わない。</p>
<div data-bbox="207 1344 726 1668" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「いいな」と思った表現</p>  <p>小丸刀で、最後力を抜いてスツとほるとやわらかい毛みtainな感じになって面白い。 三角等で線が重なるように何本も細くほると草むらみtainな感じに見える。</p> <p>自分の作品の構想 三角等と丸刀の違いを生かして、草むらに花が咲いているような作品にしたい。 花は小さめの板木につだけほって、それを何回も繰り返したい。</p> </div> <p>――</p> <p>「彫刻刀の種類や使い方によって色々な表現ができそうだね。」</p> <p>――</p>	<p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>形の感じ、形の組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方の違いなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。（観察、対話）</p>
<p>6 次時への見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> 彫刻刀による表現を使い、彫ったり板を組み合わせたりして、作品をつくることを確認する。 	<p>◇子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫 研究視点3</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りの視点と例の提示 見付けた表現について、造形的な視点にそってまとめることができるように振り返りの視点と例を提示する。 <div data-bbox="853 1713 1332 1904" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>振り返りの視点</p> <p>形：…な形がよいと思いました。 …が○○のように見えました。</p> <p>ほり方：○刀を使って、… ○刀を…に動かして</p> <p>友達：…さんの…が面白いと思いました。</p> </div>

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

自分との対話や作品との対話を通して、彫刻刀による表現の特徴やよさに気付き、自分の表現を豊かにする児童の姿。

4 授業の実際

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

表現と鑑賞を一体化とした授業づくりを進めるために、版に表す題材の見方・考え方を基に鑑賞学習追求レベル表を作成しました。版で表す題材は、彫刻刀の彫り跡と紙に刷った跡の両方を見ながら児童は学習を進めていきます。本題材で初めて彫刻刀を使うことも考慮し、彫刻刀の種類や彫り方によって表現にどのような違いがあるのか気付く児童の様子を予想し、追求レベルを1～4まで設定しました。鑑賞学習追求レベル表をつくることで、児童が「なんとなく」よいと感じた表現について、何がよいと思ったのかを自覚したり、意識的に表現に使ったりすることができるようになるまでの流れを教師がつかむことができました。また、見方・考え方を働かせるためには、自分や他者との対話が必要です。作品のよさや感じたことについて友人と対話する中で、自然と作品の形や色に目を向けることができると考えました。そこで、見方・考え方を働かせた児童の姿や言葉を想定し、活動や学習環境、言葉掛けに生かしました。これらを踏まえて、本題材で追求レベル1～2が現れる活動として、「思うままに模様をつくる」試しの活動を行いました。また、追求レベル2～3が現れる活動として友人が試しの活動でつくった作品を鑑賞して、よいと思った表現を自分でまねる活動をしました。



【よいと思う表現を探す児童の姿】

本時の学習では、よいと思う作品を探したり、自分でまねして彫ってみたりする活動の中で「どうやって彫ったのだろう」と自分自身と対話しながら表現を追求しました。また、自分が選んだ作品をつくった相手にどうやって彫ったか聞いたり、近くの友達と彫り跡について話したり、造形的な視点に沿った対話がされていました。4時目以降では、1～3時間目で得た造形的な視点を基にして更に自分の表現を深めることができました。

また、本時の導入では、どのような見方・考え方を働かせるかの見通しをもつために、教師が用意した参考作品を提示しました。参考作品からどのような感じを受けるか、どうしてそのように感じるのか、彫り方はどうしているのかといったことを問い掛けながら鑑賞を行うことで、本時の学習の見通しをもたせることができました。



【自分の表現を追求している児童の姿】



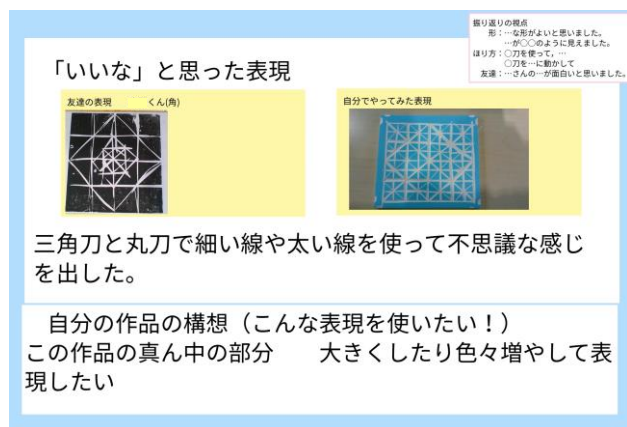
【彫り跡について対話している児童の姿】

子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

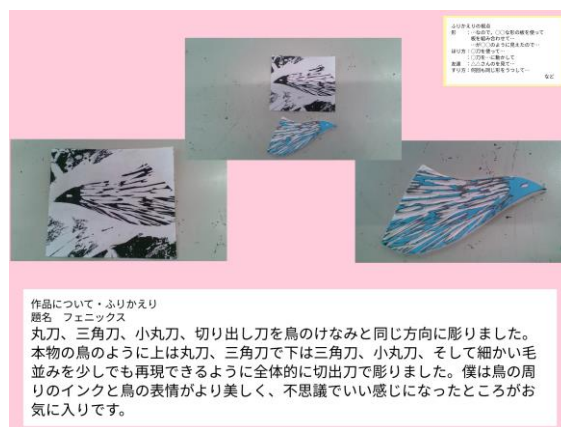
児童が自分の行為を振り返ることが、他者の作品から感じたことを言語化したり、自分の表現を改めて鑑賞したりしながら自分にとっての意味や価値をつくりだしていくことにつながると考えました。そこで、「振り返りの視点」を提示して、題材で大事にする造形的な視点に沿った振り返りができるようにしました。「振り返りの視点」は、鑑賞学習追求レベ

ル表をつくる際に基にした見方・考え方を視点として設定しています。本題材では、本時である試しの活動の後と表現を深める活動の後に、2回の振り返りを行いました。

A児は、本時の試しの活動で、丸刀と三角刀で線の太さが変わることによさや面白さを感じ、自分の作品に生かしたいと考えました。表現を深める活動では、丸刀と三角刀だけではなく、他の種類の彫刻刀も使いながら、線の太さや流れが表現できるように工夫をしました。振り返りの視点を提示することで、改めて自分の作品を造形的な視点で鑑賞し、自分にとってのよさや価値に気付くことができました。



【A児の試しの活動の振り返り】



【A児の表現を深める活動の振り返り】

IV 1年次研究の成果と課題

1 研究の成果

- 鑑賞学習追求レベル表を表現の題材でつくり、児童が自分自身と対話をしながら表現を深めていく姿をイメージして授業を組み立てたことで、表現と鑑賞が一体となった授業づくりを進めることができました。
- 振り返りの視点を設定し、題材で大事にする見方・考え方に沿って振り返りをしたことで、児童は、自分がよいと思った表現に気付いたり、そのために「どのような工夫をしたのか」といったことを言語化したりする姿が見られました。
- 導入の工夫をすることで、題材で大事にする見方・考え方を捉え、見通しをもって活動することができました。

2 今後の課題

- 鑑賞学習追求レベル表に表した追求レベルを上げるための手立てについて、教師の問い掛けだけではなく、どのような学習活動を行っていくのかをさらに研究する必要があります。
- 「振り返りの視点」について、提示する視点の数や振り返りの例などを、学年に応じてどの程度示していくかを明確にしていく必要があります。

V 引用・参考文献

- 小学校学習指導要領解説 図画工作編 文部科学省 日本文教出版 平成29年7月
- 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申） 中央教育審議会 令和3年1月26日
- 私の中の自由な美術—鑑賞教育で育む力 上野行一 光村図書出版 平成23年
- どこからそう思う？学力を伸ばす美術鑑賞 ヴィジュアル・シンキング・ストラテジーズ フィリップ・ヤノウィン 淡交社 平成27年
- 小学校新学習指導要領ポイント総整理 図画工作 阿部宏行 東洋館出版社 平成29年9月
- 学びとしての図画工作 題材のABC 阿部宏行 日本文教出版 平成30年12月
- 図工を通して子どもがもっと好きになる 評価のABC 阿部 宏行 日本文教出版 令和2年7月
- ルーブリックで変わる美術鑑賞学習 新関伸也 松岡宏明 三元社 令和2年12月